平成 22 年度　横浜市つたのは学園運営報告

平成 22 年度は、指定管理 2 年目として、本格的に施設の在り方を模索しました。利用者が減少する中、民間らしい運営を主体的に展開し、より良いサービス、支援を提供し、市立施設として幅広い相談機能をもつことを心がけ、地域活動の核となれるよう努めました。

これらの柱を基に、以下のような具体的な取り組みを行った。

1.　管理面について

(1)　新規利用者を増やすため、福祉保健センター、特別支援学校などへの訪問活動を行った。特に福祉保健センターへの訪問活動については、市担当係長、担当者も同行し、施設の現状と空き状況の周知を行った。同時に、ブログの開設、広報紙の発行を行い、特別支援学校生徒の体験学習、父母の見学会、教諭の施設体験研修を積極的に受け入れ、施設の周知と共に、選択肢の一つとしてのアピールに努めた。
しかし、新入園は 1 名にとどまり、退園者が 7 名（内死亡 1 名）と、年度当初よりも 6 名の在園者減少という結果となった。福祉保健センターよりの問い合わせは増加傾向にあったが、在宅生活が長い障害者にとって新たに日中活動をその生活に組み込むのは容易ではなく、高齢の方で介護サービスと重複してしまい、家族の送迎の手段がない、家族上に課題があるなどの理由で入園までには結び付かなかった。
退園者については、家族の高齢化が 2 件で、利用者の年齢構成から、今後も考えられる。

(2)　福祉介護職員処遇改善事業により、本俸が 5,000 円改善され、一時金支給と併せ、給与改善を図った。

(3)　月次報告を回覧し、共有化することで、予算執行の明瞭化を図り、効果的執行を心がけた。

(4)　諸規程を見直しでは、法人内他事業所とともに育児介護休業規程の見直しを行った。

(5)　長津田地区センターの指定管理者が変わり新しい信頼関係を構築することとなった。

(6)　「自立支援基盤整備事業」を利用して、男女職員用トイレを改修し、浴室に用途変更した。

(7)　横浜市の公立施設老朽化に対しての修繕により、廊下の流し台を車いす対応とし、同時に混合水栓により温水を使用できるよう改修を行った。

(8)　月に 1 回の割合で、法人内栄養士、支援員（給食委員会）、給食委託業者、を交えて給食会議を設定し、日々の給食の改善を行った。また、平成 23 年度に向けて、給食委託業者の見直しと入札、新たな契約を行った。

(9)　家族よりの要望の高い送迎については、市担当課の協力を得、11 月にハイエース（10 人乗り、車いす 2 台、リフト付き）のリースを開始し 2 月より、1 週間に 1 回、ドア・トゥ・ドアの送迎を開始する。また、市議会において条例が改正され、新年度より日中一時支援事業を行うことができるようになった。

2.　支援面について

(1)　ケアマネジメント手法により個々の個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせた適切な支援を提供するように努めた。
平成 22 年度においては、アセスメントとして 3 月中に事前調査票の配布とそれに沿った聞き取りを行い、それをもとに個別支援計画を作成した。その個別支援計画については、6 月中には本人もしくは家族の了解をいただいた。また、10 月末を以てモニタ

リングを行い、支援の状況の見直しを行った。

(2) カンファレンス等への参加を積極的におこなった。また、主に当法人内の施設の短期入所利用の希望を訴えられた利用者については、空き状況の確認、利用調整、導入時の見学の付添いなどを行った。

(3) 施設見学会を行った。見学先は以下の通りで、今後の日中活動と横浜市つたのは学園の在り方や方向性を検討するのに参考とした。

・ 綾瀬ホーム・studio COOCA・ライフステージ悠トピア・町田生活実習所・東やまた工房・朋・第１松風園他

(4) 水曜日午後の活動を充実させるため、目的活動を取り入れた。各班工夫を凝らし、他の活動時間中にはできないメニューをもって過ごした。

(5) Ｙネット(横浜ふくしネットワーク）オンブズマンの気付きを拾い上げ、支援に生かした。

3. 家族会、家族について

(1) 家族会において、施設が側面的に協力可能な事務処理や連絡などについては、協力した。

(2) 家族会を対象として、法人内ケアホームの見学会を行った。見学先は「ケアホーム四季の森（高齢対応)」と「ケアホームつばめ（身障対応)」で、特徴を持つホームをチョイスし、担当者より説明を受け、施設利用者の将来的生活の場の選択肢として視野に入れてもらうように努めた。

(3) 家族を対象に、給食試食会を行う。利用者と一緒に昼食を召し上がっていただき、昼食の様子や食事の支援についてのアドバイスや意見を頂き、食事支援の一助とした。また､給食の内容と支援の様子についてアンケートを記入していただき､参考にした。

4. 地域についての報告

(1) 10 月 16 日（土）に地域交流事業として「つたのは祭り」を、長津田地区センターの「センターまつり」、長津田小学校の「ふれあいフェスティバル」と合同で開催した。当日は、天候もよく、地域の方々を中心として多くの来場者があった。

(2) 利用者の日中活動を安定させるため、相談受付、カンファレンス参加などを行った。ケースワーカーを中心に本人と家族を取り巻く関係者によるカンファレンス。特別支援学校等の父母の見学時に、障害者自立支援法における事業所利用手続きなど、一般的な説明も行った。

(3) 地域の中学校との交流行事「あすなろ会」は予定通り開催。福祉体験実習は地域中学校２校より７名の受け入れを行う。それぞれに「障害とは？」､「知的障害とはどんな状態か？」などの課題を提示し、学年に応じた考察をしてもらった。

5. その他

(1) 横浜市資源循環局の依頼により、同局職員を対象に、人権研修を行った。

(2) 懲戒規程に基づき、調査委員会、審査委員会を新設。該当案件なし。

(3) 市担当の協力により、広報紙「つたのは便り」を新規に発行し、福祉保健センター、特別支援学校、地域ケアプラザ等に配布を行った。

(4) ボランティアの方より寄付、地域の労組から、ＤＶＤプレーヤーと２人掛けソファーを寄贈を受けた。

6.　諸状況について（平成 23 年 3 月 31 日現在）

(1)　　入退所状況：。

入退所者	入・退所月	事由
退所 7 名	6 月 1 名、11 月 3 名、1 月 1 名、3 月 2 名	入所施設 2 名、他生活介護事業所 1 名、法人型地域活動ホーム 2 名、死亡 1 名、その他 1 名
入所 1 名	11 月	在宅より

(2)　　出席状況(年間稼動日数 236 日)

月平均出席率 43.8%

月	4	5	6	7	8	9
月定日数（実日数）	22(21)	23(18)	22(22)	23(21)	23(19)	22(19)
出席率	41.2(43.1)	32.6(41.6)	38.4(38.4)	35.5(38.9)	32.6(39.5	34.5(40.0)

月	１０	１１	１２	1	2	3	計
月定日数（実日数）	23(20)	22(20)	23(19)	23(19)	20(19)	23(19)	269(236)
出席率	34.5(39.7)	36.7(40.4)	33.3(40.3)	33.0(39.9)	39.6(41.7	29.0(35.1)	35.0(39.9)

(3)　　年齢について　　最年長者：63 歳、最年少者：27 歳

年齢	20～29	30～３９	40～49	50～５９	60～６９	70 以上	平　均
男	1	7	6	2	1	0	41.2
女	3	2	2	1	0	0	36.5
計	4	9	8	3	1	0	39.7

(4)　　療育手帳（障害程度）について

障害程度	A1(0～20)	A2(21～35)	B1(36～50)	B2(51～75)	合計
人数	15	5	4	1	25

(5)　　障害程度区分

区分	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
人数	1	4	11	4	6	25

(6)　　在所年数について

年数	～2 年	～3 年	～5 年	～10 年	～15 年	～20 年	～29 年	30 年以上	合計
人数	3	0	2	3	6	4	7		25

(7)　　身体障害（手帳所持）について

障害等級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
	4	3	0	0	0	0

(8)　　主な研修･会議について

施設協会関係	県･市社協・その他	園内	
関東ブロック　　2 名	研修･講演会　１３名	支援会議　　１８回 日常運営会議　１２回	職員会議　12 回 給食会議　12 回 園内研修会　3 回